

2016年(平成28年)2月4日(木)

第8回『ボランティア活動入門塾 in 老大』修了式での学長挨拶

全十九回の講座を終え、本日、皆様に修了証を受け取っていただくことが出来ますことを嬉しく思います。

講座の企画運営のお世話をくださった市役所高齢者支援課・社会福祉協議会にお礼申し上げます。

十九回の講座を振り返ってみますと、ボランティアの基本精神の学習、託児・傾聴・災害・地域福祉・手話などについての技能的学習、そして、高齢者施設へ出向いての実地体験など、総合的で多様な講座内容でありました。

ボランティアは、奥が深く、幅が広いことを改めて学んだように思います。私は七月の開講式で、次のような趣旨のお話をいたしました。

我が国は、世界で類を見ない超高齢社会を迎えて、高齢者福祉の充実が求められています。一方で、元気な高齢者の、あるいは高齢者を元気にするための、社会的活動が重要となっています。

我が老人大学では、様々な教科の学習、クラス会・学生会・クラブの活動に多くの学生が、元気に熱心に取り組んでいます。

また、本講座を受講された皆さんを中心に、老大ボランティアクラブが結成され、リングプルやキャップの回収による車椅子とワクチンの寄付、また、高齢者施設へのボランティア訪問などの活動がなされております。

高齢者施設を訪問すると、ボランティアを受ける側とボランティアを行う側とでは、その元気度に大きな違いがあります。

しかし、私たちは、今は元気でもその状況がいつ変化するかも知れない中を生きています。出来る人が出来る時に出来る事をする相互扶助・共助の精神が肝要だとの思いを強くしています。

今日、お集まりの元気な皆さんが、この講座で学んだボランティアの心と技をこれからの活動に活かしていただきますことを心から祈念して、閉講式にあたってのご挨拶といたします。